



将来像4：参加の再デザイン～参加の意義を考えよう～

磐梯町に関わるあらゆるステークホルダーが、それぞれの関わりにおいて、磐梯町に関われるように、役場等への参加の在り方を再デザインします。

現在、磐梯町には様々なステークホルダーがいます。磐梯町に住所を持つ住民、磐梯町の企業等に勤めている通勤者、観光等で訪れる観光客、ふるさと納税等を通じて寄付を行う寄付者、さらには磐梯町に住所は持たないけれど様々な価値を生み出している交流・関係人口に分類される人々、自然人、法人問わず多くの利害関係者によって磐梯町は支えられています。

一方で、これらの多種多様なステークホルダーが磐梯町に参加する仕組みがしっかりと整備されておらず、依然として属人的かつ暫定的な対応に終始しがちです。

そこで、各ステークホルダーの定義を行い、参加の現状を把握し、デジタル技術も活用して、現代に合った形での参加のあり方をデザインします。

4. 将来像 4

参加の再デザイン～参加の意義を考えよう～

①戦略 10：参加の再デザイン

磐梯町に関わるステークホルダーの町への関わり方の現状について把握し、参加の方向性について示します。また、住民、町民、交流・関係人口として磐梯町に関わる方々等、様々な人々が交流できる仕組みも合わせて検討します。

具体的な戦術

・町のステークホルダーの現状把握と、町への関わり方の方向性を示します。

②戦略 11：交流・関係人口の拡充

交流・関係人口に関する取り組みを促進するために、交流・関係人口を量的・質的に可視化し、拡充します。

具体的な戦術

・交流・関係人口の現状を明らかにし、より関わりやすい環境を構築します。

③戦略 12：議会の DX 支援

町民により議会を身近に感じてもらえるように、議会が推進するデジタル変革について、その求めや必要に応じて、取り組みに協力をしていきます。

具体的な戦術

・磐梯町議会デジタル変革検討委員会を通じた協力を行います。